

広報

かわごえ環境ネット

2024年5・6月号 No.197

6月第1日曜日は「身近な水環境の一斉調査」として、全国の河川で気温、水温、CODなどの調査が行われます。かわごえ環境ネットでは2005年から調査を続けており、今年で20年目になります。私が調査する中では、まっすぐな川と緑と空だけで構成される、入間川に架かる唯一の冠水橋である出丸橋から見た下流の風景が印象的です。ここは1680年に付け替えられた人工水路です。こんな大仕事を成し遂げた江戸時代に思いを馳せずにはられません。あなたも今年の川の調査に参加してみませんか？（詳細は5面）（小瀬博之）



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

かわごえ環境ネットは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

- 2-3: **【報告】第22回かわごえ環境フォーラム (2月24日)**
- 4: **【コラム】社会と環境について思うこと (27) 自然を守るとは風景を守ること**
自然を訪ねて (15) **びん沼川と陶器製手榴弾弾体**
- 5: **【募集】川越市内の川の一斉水質調査 (6月2日午前を基準に実施)**
会員向け情報 (会費納入のお願い、総会・懇親会開催)
- 6: **かわごえ環境ネットからのお知らせ**
- 7: **会員からのお知らせ**
- 8: **イベントカレンダー (2024年5月1日～6月30日)**
ポタニカルアート (7) **キヌガサタケ**

残したい川越の風景 (15) 出丸橋から見た入間川下流の風景 (2023年6月4日撮影)



【報告】第22回かわごえ環境フォーラム(2月24日開催)

2月24日(土)9:30-16:30にウェスタ川越活動室1・2において、「第22回かわごえ環境フォーラム」を開催し、午前の部は51名、午後の部は33名の参加者がありました。また、この行事に合わせて「かわごえ環境活動報告集」をフル

カラー印刷で発行しました。同時に報告集のPDF版を右記ホームページに掲載しました。本行事の開催にあたって、今回も川越市の後援、パイオニア株式会社川越事業所、武州ガス株式会社、株式会社環境総合研究所、初雁興業株式

会社の4社の協賛をいただきました。
(小瀬博之)



かわごえ環境フォーラム
(<https://forum.kawagoekankyo.net>)

午前の部 かわごえ環境活動報告会

午前の部「かわごえ環境報告会」では、8件の報告がありました。

(1) 田島悠莉(東洋大学総合情報学部)「ドローンの自律飛行による鳥害対策」

スマート農業の普及を妨げている初期費用を安くすること、それに鳥害の減少を目的に、100g未満のドローンを使って鳥を検知した際の自律飛行方法を検討した。動体検知の手法や自律飛行システムのフローチャートを説明し、室内テスト飛行の様子が紹介された。

(2) 田沢誉・小瀬裕之(東洋大学総合情報学部)「持続可能な農業の現状と経営面から見る課題」

持続可能な農業はどのように行われているか、また収入面からみた持続可能な農業のあり方を考察。収入向上には農地拡大や大規模施設園芸農業の導入が有効。農業+αの事業も収益向上になる。さらに、農業理解の促進や仲介者の存在が持続可能な農業の発展と収入向上に重要な役割を果たすとのこと。

(3) 黒崎豪・小瀬裕之(東洋大学総合情報学部)「若者の森林保全への参加促進方法」

SDGsの項目の一つ「森林保全」に焦点をしばり、保全活動にどうすれば若者が参加するかをアンケートを主に検討。保全活動の参加者は年齢層が高く、若者が参加しづらく感じることや近い年代が集まる活動であることが重要だとわかったことから、参加のきっかけづくりについていくつかの例が紹介された。

(4) 福原時夫(埼玉県生態系保護協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部)「埼玉県生態系保護協会支部40年の歩みと今後」

1983年8月7日に川越支部が設立、

これまでの支部の歩みを紹介。また、ご自身の支部長、妻が会計担当と、ご夫婦で活動してこられた功績の一つ、1986年の今福(福原)雑木林でオジロビタキの発見についても紹介。ボランティア活動を通してのひととの交流や視野の広がりなど、生涯現役を謳う日常を紹介いただいた。

(5) 丸岡巧美・成川正行・長谷川清(公益社団法人日本技術士会)「家電の節電と安全管理」

家電の節電方法や安全管理について解説。エアコンは電源を入れてから正常冷房になるまで10分以上かかるため、30分以内の外出は運転を継続するとよい。電子レンジとIH電磁調理器の安全使用は、電磁波の影響を予防するプロテクタなどを使ったり、心臓ペースメーカー装着者は本体から離れた方がよい等を解説。

(6) 松崎浩憲・丸岡巧美(公益社団法人日本技術士会)「ハウス栽培の省エネ・脱炭素化及び工場化に関する提案」

ハウス栽培は空調環境整備のため多大なエネルギーを消費しているが、その解決案を紹介。1階をウナギやウニなどの養殖。その湿気を2階のキノコ等太陽光を必要としない作物生産に使用し、2階から発生する二酸化炭素を3階のイチゴやトマトなどの水耕栽培に使用するといった3階型EPSドームによる農水産業の工業化について紹介。

(7) 藤岡重歳・寺田かなみ(かわごえ里山イニシアチブ)「生物多様性有機農法がもたらす生きものの多様性」

かわごえ里山イニシアチブの2023年度新規に行った3つの活動を中心に紹

介いただいた。1つめは、高校生のための探求学習としてコマ作りやマコモ栽培の実施。2つめは、日高田んぼ女子プロジェクトでの全面支援。3つめは埼玉未来大学の研修生を受入れ田んぼ体験を実施。また会員の寺田かなみさんからは、子どもたちに田園に生息する虫とふれ合う機会を作っていきたいとの思いもあり、本団体の会員になっていると紹介いただいた。

(8) 石川真(川越Farmer'sMarket代表)「発足10周年に寄せて川越産農産物の展開・活動」

川越の農業が中心市街地の市民に知られていないことに驚き、川越の農業の魅力を知ってもらいたいとの思いから2014年にスタート。翌年、オープンしたてのウェスタ川越で川越市農政課と川越Farmer'sMarketを開催。10年前30人の来場者だったイベントは、2023年には100店が集まり18,000人の来場者があるほどのイベントに発展。飲食店から地元野菜を使ったメニューを提供したいとの声が出るほど、市民の意識が変わった。そして今、新たな仕掛けを検討中。

(9) 菊地三生(かわごえ環境ネット)「社会環境部会の活動報告」

かすみがせききた環境対話カフェや森フェスin川越及び本会社会環境部会の活動概要の報告。

(10) 賀登環(かわごえ環境ネット)「自然環境部会の活動報告」

本会自然環境部会の活動概要の報告及び環境保全の現状と課題の投げかけ。
(飯島希)



(1) 田島さん (2,3) 小瀬さん (4) 福原さん (5) 丸岡さん (6) 松崎さん (7) 藤岡さん (7) 寺田さん (8) 石川さん (9) 菊地さん (10) 賀登さん

午後の部 ワークショップ「持続可能な社会の川越 STYLE」

午後の部のワークショップは、霞ヶ関北自治会の環境部と本会の共催で実施した「かすみがせききた環境対話カフェ」の紹介(写真1)と「川越市環境基本計画の見直し意見交換会」で現在まとめている提言書の紹介を行いました。昨年のかわごえ環境フォーラムにおけるワークショップの後にどのような活動をしてきたかの共有をした後、32名の参加者ととも4つ(A~D)に分かれてグループワークを行いました。

グループワークのテーマ 「持続可能な社会の川越 STYLE」

昨年の第21回かわごえ環境フォーラムにおいて、「2035年(2050年脱炭素を見据えて)にどんな未来になってほしいか」をグループワークしたときに、一つの形として「自立自給の川越」という姿を共有しました。今回のフォーラムでは、「自立自給の川越」をより膨らませて「川越らしさ」「川越 STYLE」と呼べる形にするためにどんなことができるか、各グループワークからアイデアを話していただきました。

各グループの発表

● A グループ (写真2・3)

「自立自給」とは「食料」「エネルギー」「経済」の3点が自立自給する川越とした。環境負荷を下げつつ経済も自立したい。一方、川越らしさの一つに、高校がたくさんあるが、今はそれぞれに特徴や専門性があるように感じないし、卒業したら都内へと人材が流出している。これら<環境負荷を下げる>、<経済が自立する>、<人材流出を抑える>ことを考えるアイデアとしては、カーボンゼロではなくカーボンマイナスに持っていく(エネルギーの自給技術)、その分の排出権を売って獲得した資金を川越の高校や教育に還元し、若者のよりよい人材育成に役立てるのはどうか。せっかくたくさんある高校をより個別に特徴づける教育をするといい。

● B グループ (写真4・5)

食の自立自給をめざしたい。農業に新規参入したいという声を聞く一方、農地の確保が難しいという壁がある。農林水産課で農地を貸す仕組みをつくって新規の農業就労者を増やすのはどうか。地産地消で余った食材を交易する、地産地消の集荷・配送システムをつくるなど。他にも地域で仕事ができるようになれば通勤時間が縮小することで時間的余裕が生まれ、その余暇で農作業が可能になるなど、仕事も食もお金も川越で循環するしくみにする。

● C グループ (写真6・7)

川越の中心街だけでなく、田園を知ってもらうよう観光をパッケージ化し、獲た資金は川越の教育に還元する。その教育において、若い人たちに興味を持ってもらいアクションへとどうやって巻き込むかのしくみをつくる。小学校では森林での校外学習や、中学生、高校生の卒業間近となる時期に強制的あるいは単位制でボランティア参加を推進、かわごえ環境ネットが小・中・高校へ出前授業するなどして、若者に知ってもらう仕組みをつくるなど。また親への教育と同時に教育現場から子どもへの教育をする。

● D グループ (写真8・9)

伊佐沼の自然や(仮称)川越市森林公園計画地の緑は守っていくべき。一方で相続によって雑木林が減ってしまっている現実も見ていると、ボランティアに限界を感じることもある。緑の保全・雑木林の保全は法や条例で制限をかけられる。

全体シェア

「自立自給の川越」とは、「食料・エネルギー・経済」が自立自給すること。

それを実現するためには、よい人材を輩出する「教育」が重要。森林での校外学習や出前講座、環境ボランティアの必修化などで自然や緑地の大切さに気づく教育だったり、企業が欲しがる(AIのような)特化した技術教育や排出権取引に関する高等教育などで人材を育てる。

その人材育成教育への資金は、川越の田園も巡るパッケージ化した観光プログラムの売上だったり、排出権を売った資金を使う。川越の付加価値から生み出した資金を使って行う教育でよい人材を輩出すれば、その人材欲しさに企業誘致となり雇用創出や、自ら起業して地元が仕事場になれば、人材が川越から流出することなく、川越の経済発展に貢献するしくみができるのではないだろうか。

また、食料の自立自給のためには、農家(地産)と地元飲食店(地消)の集荷配送システムを作ったり農業就労希望者へ農地の貸し出しのしくみをつくるなどのアイデアが出ました。一方で相続などで減ってしまう農地や雑木林は、そうならないよう制限をかける条例をつくる。とはいえ、条例を作ることができるのは議員ですから、積極的に現状や重要性を伝え続けていくことも大事。

Aグループの発表の際、熊本県では半導体企業が誘致されたことで、半導体技術に

特化した技術教育を高校で行い、就職に役立て、教育と雇用と経済が地域内で循環している事例が紹介されました。またサンフランシスコの企業がフロリダに移転したものの人材確保ができなかったため、人材確保ができるサンフランシスコに企業が戻ってきたというよい人材が企業誘致となった事例も紹介してくれました。

この事例を参考に、人材輩出の技術特化した教育が、新たな企業誘致や雇用創出となり、川越が職と暮らしの空間となれば人材流出することなく、人・もの・金が循環する自立した川越となるでしょう。そしてそんな川越には、緑の保全に向け声を出し、伝え続ける市民が行政を動かすことで、農地も放棄されることなく川越で作った農作物が川越で消費される、食も自給する川越を想像するとなんだか楽しい未来になりそうです。そんな未来は、時間に余裕ができ、ゆったりとおおらかな心で過ごす人が集う川越になっているかもしれませんね。

想像することはいくらでもできます。その想像する未来を共有するために、今を知り、伝え、思いを広げる先に、仲間ができコミュニティができ、共に未来を創り上げていけるようかわごえ環境ネットとしてこれからまた1年活動していきたいと思えます。

2025年には、川越市環境基本計画が改定されます。望ましい川越の未来像に向けて2035年までの川越市の取り組む具体的な行動計画を作る作業を2023年からスタートし、引き続き2024年も改訂に向け市民の声が反映できるよう活動していきます。興味がある方はぜひ一緒に作業しましょう。

最後に、グループワークでファシリテーターを務めていただきました横山三枝子さん(Aグループ)、高澤裕考さん(Bグループ)、小川夕子さん(Cグループ)、賀登環さん(Dグループ)に御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。(飯島希)



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと(27) 自然を守ることは風景を守ること

先日、かわごえ環境ネットに長く関わっている方とお話した際に、こんなことをおっしゃっていました。「私は福原の雑木林がとても気に入って川越に引っ越してきたの。そして今この雑木林を守っていくための活動を続けている」と。この方は雑木林の美しさに魅了され、ある意味、風景に恋をして川越に移り住み、生活の場を決めたのでしよう。

山田地域に住む昔からの農家は言いました。「美しい日本の田園風景を守っているのは、俺たち農家なのだ」と。僕は霞ヶ関地域の小畔川と田んぼの風景、そして遠方に臨む富士山が気に入る、笠幡の地で環境にやさしいお米づくりをはじめました。

環境を保全していく活動に取り組んでいると、「川越という都市で自然を残してことの意味はなんだろうか」と、よく考えています。たしかに川越くらいの広さの都市において自然が残っていくことの効果は、グローバルな課題となっている地球温暖化の低減や生物多様性

の減少には地球規模の尺度からはそこまで貢献しないかもしれませんが。しかし、都市が持続的であり続けるためには自然が必要だと明言できます。もちろん都市には基礎的なインフラが整っていることや仕事があり、経済の循環があることも大切ですが、それだけでは都市の持続性は担保できません。都市の中に、生活の場のすぐ近くに心をはっとさせるような自然があること、それが都市の大きな魅力になります。

自然の風景には人を惹きつける力がある。人は風景に思いを寄せ、その風景を守るためのアクションを起こし、そしてこれからもこのまちに住み続けて

いく後世に残し伝えていくことができるのです。自然を守ることは風景を守ること、みなさんが大切にしている風景はなんですか。このまちのどこかでお会いした際に教えてください。（増田知久）



小畔川の桜並木



緑肥の広がる田んぼ



福原の雑木林

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて(15) びん沼川と陶器製手榴弾弾体

はじめに

びん沼川という自然の中に放置された先の戦争の遺物の記事です。2015の朝日新聞に「陶器製手榴弾戦時の残像 全国の窯元製作、川越の川で野ざらし 保存の計画なし」という見出しで記事と河原に散乱する陶器製手榴弾弾体（手榴弾の容器の部分）の破片の写真が載っていました。場所が記載されていなくて、実際に見に行くことはできませんでしたが、強く記憶に残っていました。それから8年が経過した今年1月16日の朝日新聞に、今度は「?をめぐる@埼玉(8) 戦中の金属供出 鉄が尽き陶器まで、残骸いまでも」という見出しで関連記事と河原に散らばる破片の写真が載りました。今回は川越東高校のグラウンド近くにあった軍需工場裏手のびん沼川に廃棄された、と場所がわかりましたのでさっそく出向いてみました。

陶製手榴弾弾体

川越東高校のすぐ東側の河原に白っぽい断片が、100mぐらいいわたって散乱しています(写真1)。破壊されていない陶器製弾体を探したと思われる穴があちこちにありました。製造期間は終戦までの1年足らず

で、終戦後残った弾体は米軍の要請で砕かれ、廃棄されたようです。鉄が足りなくてお寺の鐘まで供出した愚かな時代だったこともあり、平和を考える意味などの観点から文化財としての保存も協議されたことはあるようですが、破壊され捨てられた陶器製弾体は廃棄物に過ぎず、川越市教委に保護する機運はなかったようです。

陶器製弾体は立命館大学の調査報告書^[1]によると、外見から3種類あるようですが、びん沼川にあるものは丸い弾体Ⅱ類(写真2の真ん中)だけで、各地から陸軍造兵廠川越製造所の下請け工場であった浅野カーリットに持ち込まれ、ここで信管や爆薬などを詰め、造兵廠に運ばれました。

陶器について

私が現地から持ち帰った破片の窯元や成形方法、釉薬などについて調べる過程は、正誤は別にして陶磁器に不慣れな「にわか鑑定士」を楽しませてくれました。弾体の窯元は瀬戸、有田、信楽で、その他産地不明が17%という報告があります。写真3の左が瀬戸、真ん中が信楽、右が有田とされます。その判定や製造工程は何日もかかって調べ

ましたが割愛します。

写真2の上の「弾体Ⅰ類」にある備前焼の弾体は、戦後人間国宝になられた山本陶秀さんの作で、庭に400個以上が埋められていて、愚かな戦争の記憶として残してもらうために備前市に息子さんから寄贈されたとか。型を使わずに作るロク口成形なのにどれも驚くほど大きさも厚みも一定だったようで、これほどの作家にも武器を作らせた時代だったのですね。(賀登勉)

参考・引用文献 [1] 陶器製手榴弾弾体の考古学的研究, 立命館大学文学部学芸員課程研究報告, 第12冊, 2006



写真1 びん沼川に散らばる破片



写真3 陶器製弾体の破片^[1]

写真2 立命館大学の分類^[1]

【参加者募集】「川越市内の川の一斉水質調査」6月2日(日曜日) 午前を基準に実施

実施概要

毎年6月第1日曜日に全国で「身近な水環境の全国調査」が行われています。川越市ではかわごえ環境ネットが「川越市内の川の一斉水質調査」として主に担当していて、今年は6月2日(日) 午前を基準に実施します。

参加者募集

会員の方、会員外の方の調査参加者を募集します。参加を希望する方は、5月23日(木) までにかわごえ環境ネット事務局(本紙最終ページに連絡先を掲載)までご連絡ください。

また、本会総会開催前の5月25日(土) 9:30-10:00 に説明会と試薬等の配付を実施しますので総会会場に直接お越しただいてもけっこうです。

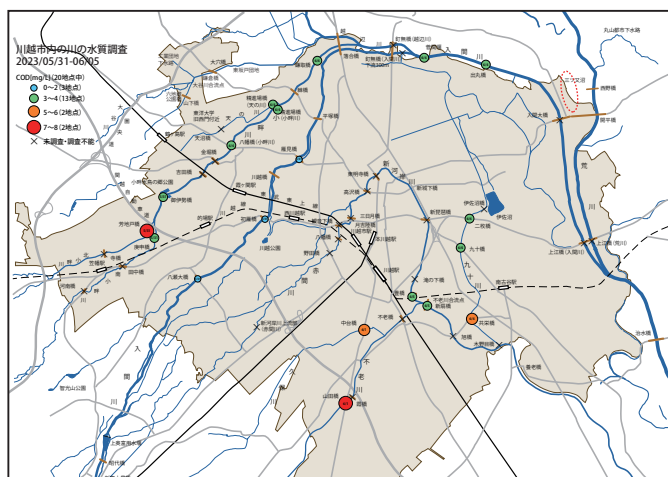
測定項目と用具

測定項目は、現場の気温・採水した水の水温・周辺の自然などの様子の記録(できれば写真)、採水後の水質(試薬を用いたCOD)です。必要な用具は温度計、カメラ、採水容器(洗浄した500mL ペットボトルを採水箇所分)、採水用のバケツやロープ、ストップウォ

チ、スポイト、「パックン」(定量の水を試薬に入れるための容器)です。スポイトと「パックン」は説明会のときに配布します。郵送等の対応が必要であれば事務局にご連絡ください。調査方法の詳細は、主催者ホームページ(https://www.japan-mizumap.org/003main/003manual)の「マニュアル」をご覧ください。

調査地点

2023年の調査地点のCOD(化学的酸素要求量)と過去に実施した調査地点(地図上で×と記しているところ)は地図及び表(2023年度測定箇所は●)の通りです。分担を決めて調査ポイントで採水して、各自で必要項目を測定し、結果をご報告いただきます。希望する調査地点(地図参照)があれば連絡の際にお知らせください。



2023年6月4日の川越市内の川の一斉水質調査(COD)結果

南小畔川	川南橋、田中橋、●庚申橋
北小畔川	寺橋、●芳地戸橋
小畔川	●御伊勢橋、吉田橋、金堀橋、●八幡橋、●精進場橋、●鎌取橋
天の川	東洋大学旧西門付近、●精進場橋
越辺川	釘無橋
入間川	●八瀬大橋、●初雁橋、●雁見橋、釘無橋下流300m、●管間堰、●出丸橋、入間大橋、上江橋
荒川	上江橋
赤間川・新河岸川	新河岸川上流部(赤間川)、野田橋、八幡橋、観音下橋、三日月橋、高沢橋、東明寺橋、新琵琶橋、滝の下橋、●豊橋、●新扇橋、旭橋、木野自橋
九十川	伊佐沼橋、●二枚橋、●九十橋、●共栄橋
不老川	●山田橋、霞橋、不老橋
久保川	●中台橋

会員向け情報(会費納入のお願い、総会・懇親会開催)

2024年度会費納入のお願い

2024年度会費の納入をお願いします。年会費は、個人会員1,000円、団体会員(民間団体、事業所、川越市)は2,000円です。5月24日(金) までにゆうちょ銀行の口座に振込ください[口座番号00180-2-13880(ゆうちょ銀行以外から振り込む場合は、ゆうちょ銀行〇一九支店 当座0013880), 加入者名:かわごえ環境ネット]。振込方法によって手数料がかかります。

2024年度総会・懇親会開催

2024年度総会

5月25日(土) 10:00-12:00 に2024年度総会を川越市立博物館(視聴覚ホー

ル)で開催します。連絡方法が郵送のみの会員には、会費納入の案内と出欠連絡用はがきを含めた情報を郵送でお送りしました。メールサービスを提供している会員には、メールで振込先と出欠連絡用フォームの情報を4月12日(金)にお送りしました。

出欠については、郵送のみの会員については、出欠連絡用はがきで5月17日(金) 消印有効、または所定のGoogleフォームで5月20日(月) 12:00 までにご回答ください。

「2024年度総会議案書」は、広報紙を郵送している会員には本紙と一緒に送付しています。メールサービスを提供

している会員には添付ファイルで送付します。

懇親会 総会終了後の5月25日(土) 12:30-13:30 ごろに会場周辺(屋外を予定)で懇親会(昼食会)を行います。日頃より活発な環境保全活動をされている会員のみなさまの情報交換や、相互交流を深めることにより、今後さらに活発な活動が展開されるようになればと思います。ぜひご参加ください。参加申込は総会の連絡とともにお願いいたします(予約制)。参加費は1人1,000円(当日集金)を予定しています。

かわごえ環境ネット会員募集

個人会員、団体会員を随時募集しています。年会費は個人会員1,000円、団体会員2,000円です。会員外でこの冊子を手にとられた方、インターネットでご覧いただいている方、ぜひご入会くだ

さい。

会員特典 ①本紙「広報かわごえ環境ネット」や各種おしらせを郵送・E-mailでお届けします。②本紙及び本会インターネットへの記事掲載やチラシを同封できます。③本会主催の事業へ優先して参加できます。④総会、専門委員会活

動へ参加できます。

詳細 かわごえ環境ネット事務局(川越市環境政策課)に問い合わせるかWebサイト(https://kawagoekankyo.net)をご覧ください。 入会案内



報告

理事会・事業運営委員会

2月21日(水)

❶ ちょうの冊子発行報告、❷ 第22回かわごえ環境フォーラムのキャストイングとグループワークの進行の検討、❸ 役員改選通知、❹ 総会議案書作成期限の確認、❺ 総会案内と会費納入依頼の送付、❻ 本会が会員となっている団体の確認と今後の対応、❼ 映画上映会(2月3日)の実施報告、❽ ボランティア保険の加入案内について会員に資料送付

3月13日(水)

❶ 川の一斉水質調査の実施方法、❷ 総会議案書の検討と今後のスケジュール、❸ 春の里山自然観察&クリーン活動の募集と現場の状況、❹ 本会が会員となっている団体への対応、❺ 第22回かわごえ環境フォーラムの報告と反省、❻ ちょうの冊子の郵送費支出承認、❼ 「第四次川越市環境基本計画策定に向けた提言」を4月以降に川越市に提出することを承認、❽ 「(新訂版)川越の自然」「ちょうから見える川越の自然」のデジタル版公開を承認

4月17日(水)

❶ 総会議案書の承認、❷ 次期監事の理事会承認、❸ 春の里山自然観察&クリーン活動の準備、❹ 川の一斉水質調査の対応、❺ 「第四次川越市環境基本計画策定に向けた提言」を5月に環境部長に提出する方向で調整、❻ 会員動向(個人141、民間団体22、事業者26、行政1

の190会員)(理事長 小瀬博之)

社会環境部会

3月例会は休会でした。社会環境部会の例会について、2024年度は定期的に集まるとの例会は休会いたします。必要に応じて活動毎で打ち合わせを実施します。

2024年度の活用内容(予定)

- ・6~7月「ゴミの出し方についてのお話」
- ・9月「地域コンポストづくりの勉強会」
- ・10月「地域コンポストづくりワークショップ」
- ・時期未定「雨水の普及活動」

年度期間中においても会員から環境活動の企画提案があれば、臨機応変に対応します。活動案の相談がありましたら、事務局または社会環境部会代表まで連絡ください。(社会環境部会代表 増田知久)

自然環境部会

3月例会は8日(金)9名参加 市役所地階修養室にて、4月例会は12日(金)6名参加 市役所7E会議室にて開催

1. 活動報告 ① 「(仮称)川越市森林公園」計画地定例活動:2月12日(月)15名参加 オドリコソウエリア手入れ終了、2月26日(月)雨中止、3月11日(月)16名参加 シュンランの森手入れ ウグイスカグラ花ざかり、4月8日(月)15名参加 シュンランの森手入れ、② 池辺公園定例活動:3月12

日(火)2名参加 アズマイチゲ開花確認 不法投棄ごみ収集、4月9日(火)雨中止、③ 冊子「ちょうから見える川越の環境」オールカラー40ページを発行。かわごえ環境フォーラムで配布、④ 報告集「下赤坂ふるさと緑の景観地内の上松原・民有林の自然再生と生き物調査」カラーコピー(14ページ)の紹介と配布、⑤ 第22回かわごえ環境フォーラムの報告

⑥ 「生物多様性講座」~川越の植物を訪ねて~

3月23日(土)9:30-12:00 川越南文化会館(ジョイフル)、講師:牧野彰吾氏、参加者15名

初めに「埼玉県内における外来植物が在来植物の分布に与える影響」というお話があり、外来種が在来種を駆逐しているというのは当たらないのはいかとの見解。次いで、「(仮称)川越市森林公園」計画地の中をウォッチング。咲き始めたスマレの仲間、花が20以上咲いているシュンランの鑑賞など。今回も中身の濃い講座でした。また、環境政策課みどりの担当から2023年度の生き物調査の報告がありました(川越市主催、本会協力)。

2. 協議事項 2024年度事業計画検討、総会議案検討、市に協力している生き物調査の2024年度重点事項について(自然環境部会代表 賀登環)

予告・募集

会合

◆ 広報委員会 ❶ 5月8日(水)・❷ 6月5日(水) 9:00-9:30

● 自然環境部会 (第2金曜日) ❸ 5月10日・❹ 6月14日(金) 14:30-16:00

◆ 事業運営委員会 ❺ 5月22日・❻ 6月19日(水) 9:00-10:00

◆ 理事会 ❽ 5月22日・❾ 6月19日(水) 10:00-11:30

★ 川越市環境計画見直し意見交換会 ❿ 6月26日(水) 9:00-11:00

会場:❶❷ オンライン(URLは委員に別途案内)、❸❹❺ 川越市役所地階修養室(川越市元町1-3-1)、❻❿ 川越市役所7D会議室

* ❸❹は会員が、❷はどなたでも参加できます。

自然環境部会の活動

★A 「(仮称)川越市森林公園」計画地植物調査・保全活動(毎月第2・第4月曜日)5月13・27日、6月10・24日(月)9:30-12:30 集合:川越南文化会館(ジョイフル)(川越市今福1295-2)

★B 池辺公園定例活動(毎月第2火曜日)5月14日・6月11日(火)9:30-12:00 場所:池辺公園(川越市池辺1302)

A Bの問い合わせ先:賀登(Tel.049-234-9366)

★C 田んぼの生きもの調査 7月6日(土)9:30-13:00、かわごえ里山イニシアチブ

と共催、25名募集、参加費500円

★D キノコの観察会 7月7日(日)9:30-12:00、(仮称)川越市森林公園計画地、25名募集、参加費200円

申込先:G Dは6月3日(月)10:00から電話で環境政策課(Tel.049-224-5866)

広報委員会

2024年7・8月号(No.198, 7月1日発行)投稿募集(会員対象)

提出期限:6月8日(土)

提出方法:原稿(テキストデータ、図表)と写真等の画像(解像度の高い元データ)は電子データで編集担当共有のメールリスト(koho@ml.kawagoekankyo.net)に送付。

NPO 法人かわごえ里山 イニシアチブ

増田純一 (hatsukarinosato@googlegroups.com, 070-5599-2623)

近況報告

4月6日(土): 昨年11月に休耕田に種を蒔いた菜の花が田んぼ一面に黄色い花を咲かせました。そしてこの日は、福田地区総出の堀さらいを行いました。かわごえ里山からは総勢11人の参加で農業人口が高齢化している中で比較的若い世代の参加で貢献することができました。



予告

7月6日(土) 9:30-13:00 に生きもの調査(本会自然環境部会と共催)、市の広報を参考に参加申し込みをしてください。

Facebook <https://www.facebook.com/kawagoesatoyama>

HP <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

福原ファームクラブ

横山三枝子 (049-246-9319)

予告

◎**おいしく・楽しく農業体験** 場所: 明見院(川越市今福 677) 近く、会費: 家族1,000円(年間)、**1** 5月11日(土) 9:30-12:30 ごろ 大根畑の片付け他、**2** 6月8日(土) 9:30-12:00 ごろ トウモロコシ畑他

川越フォレストクラブ

賀登環 (049-234-9366)

報告

3月13日(水)は「リョウブの森」の手入れが完了しました。次回からは別のフィールドになります。(次回未定)



3月13日 イエイ ここのエリア、完了!

6-8 ページの記号凡例 ★: 本会主催・後援等一般公開行事 ●: 本会会員対象行事 ◆: 本会理事・委員対象会合 ◎: 本会会員等主催のイベント等 ○: その他(個別記事参照)

予告

◎「(仮称)川越市森林公園」計画地「リョウブの森」の手入れ(今回は開催未定)「(仮称)川越市森林公園」計画地で、手入れがされていない公有地やそれにつながる民有地を、動力班と手作業班で効率よく、かつ植生に配慮した生態系保全の手入れを行っています。奇数月の第2水曜日が活動日です。

こもれびの森・里山支援隊 (東洋大学小瀬研究室)

小瀬博之 (hkose@toyo.jp, 049-239-1532)

報告

3月2日(土)は10名の参加で伐採枝や落枝のチップ化など、4月13日(土)は12名の参加でコナラ枯損木の処理や育成すべき植物の保護を実施。ナラ枯れが進行して環境の変化が大きいです。



3月2日チップ化

4月13日参加者

予告

◎**里山林保全活動** **1** 5月11日(土)・**2** 6月8日(土) 8:30-16:00、作業: 枯損木の処理、残すべき植物の保護など
◎**森づくり安全講座** **3** 6月15日(土)・**4** 6月22日(土)・**5** 6月29日(土) 8:30-16:30、内容: 刈払機、チェーンソーを用いた安全作業実習(本隊での継続参加者対象、各回別プログラム)

1~**5**の場所: 東洋大学川越キャンパス(川越市鯨井 2100)、定員: 15名(高校生以上、事前予約必要)

◎**つるがしま市民環境まつり出展** 6月1日(土) 10:00-12:00、場所: 鶴ヶ島市役所(鶴ヶ島市三ツ木 16-1)、内容: 森で採れた材料で工作(6/1のみ)、活動紹介パネル(5/31-6/14)

詳細はこもれび隊 Facebook ページで
HP <https://www.toyo.ac.jp/social/satoyama>

公益財団法人埼玉県生態系保護 協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部

1**2**内野(049-222-1731, 当日 090-7003-8617), **3**福原(当日 090-2900-1048)

予告

◎**伊佐沼でバードウォッチング**(毎月第

2日曜日) 集合: 10:10 伊佐沼西岸蓮見橋近くのあずまや、雨天中止、**1** 5月12日(日) 10:10-12:00 10日からバードウィークです。鳥たちの子育てをじまさないように、静かに観察します。**2** 6月9日(日) 10:10-12:00 夏鳥が揃って出迎えてくれます。オオヨシキリ、コアジサシなどを観察しましょう。

◎**川越水上公園自然観察会** 集合: 9:00 川越水上公園入口、**3** 5月4日(土) 9:00-12:00 入間川河川敷の遊歩道にはまだまだ自然な野草が観られます。「千年の森」では今年もオドリコソウが...

1**2****3**共通の持ち物: 飲み物、筆記用具、あれば観察用具(双眼鏡、ルーペ、図鑑など)、参加費: 一般 300円、高校生以下 100円(保険代・資料代)

南の会

桜井勢子 (049-223-3560, ※夕方以降)

◎**料理クラブ南の会** 今年度より男性会員のみの料理クラブを発足します。料理に興味のある方、仲間になって楽しみませんか! 電話お待ちしております。

個人会員からのお知らせ

福岡壽賀子さん(社会環境部会)

高階南公民館(049-245-3581)

予告

◎**かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」** 会場: 高階南公民館(川越市藤原町 23-7) コミュニティスペース、参加費: 無料。持ち物: 直近2~3か月分の電気・ガス・水道使用量(料)のわかるもの。**2**は実験をしたい方は500mLくらいのペットボトルに調べたい水を入れて持参。

参加されたみなさんと身体や環境に負荷の少ない取組や暮らし方など、井戸端会議のようにお話しています。個々の取組が減災・防災につながります。

1 5月15日(水) 10:00-11:30 「生命力を高める生活~食べること編~」地産地消・旬のもの。一物全体を食す。健康は保たれ、フードマイレージは減る!

2 6月12日(水) 10:00-11:30 「生命力を高める生活~飲むこと編~」生命力を高めるには、加工しない水を飲むのがよいという。中学・高校でも行う理科の実験を通して、水の中がどうなっているのか見てみましょう。雨水の純度の高さを知り、雨水の活用なども一緒に考えましょう。

2024年5月

1	水
2	木
3	金 憲法記念日
4	土 みどりの日 ◎ 9:00 川越水上公園自然観察会
5	日 こどもの日
6	月 振替休日
7	火
8	水 ◆ 9:00 広報委員会
9	木
10	金 ● 14:30 自然環境部会
11	土 ◎ 8:30 東洋大学「こもれびの森」里山林保全活動 ◎ 9:30 おいしく・楽しく農業体験
12	日 ◎ 10:10 伊佐沼でバードウォッチング
13	月 ★ 9:30 「(仮称) 川越市森林公園」計画地植物調査・保全活動
14	火 ★ 9:30 池辺公園定例活動
15	水 ◎ 10:00 かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」
16	木
17	金 ○ 総会・懇親会出欠はがき回答期限 (消印有効)
18	土
19	日
20	月 ○ 12:00 総会・懇親会出欠 Google フォーム回答期限
21	火
22	水 ◆ 9:00 事業運営委員会 ◆ 10:00 理事会
23	木 ○ 「川越市内の川の一斉水質調査」参加申込期限
24	金 ○ 2024年度会費納入期限
25	土 ★ 9:30 「川越市内の川の一斉水質調査」説明会 ● 10:00 2024年度総会 ● 12:30 懇親会
26	日
27	月 ★ 9:30 「(仮称) 川越市森林公園」計画地植物調査・保全活動
28	火
29	水
30	木
31	金

2024年6月

1	土 ◎ 10:00 つるがしま市民環境まつり
2	日 ★ 午前 川越市内の川の一斉水質調査 (基準日)
3	月 ○ 10:00 「田んぼの生きもの調査」「キノコの観察会」受付開始
4	火
5	水 ◆ 9:00 広報委員会
6	木
7	金
8	土 ◎ 8:30 東洋大学「こもれびの森」里山林保全活動 ◎ 9:30 おいしく・楽しく農業体験 ○ 本紙 2024年7・8月号 (No.198) 原稿投稿期限
9	日 ◎ 10:10 伊佐沼でバードウォッチング
10	月 ★ 9:30 「(仮称) 川越市森林公園」計画地植物調査・保全活動
11	火 ★ 9:30 池辺公園定例活動
12	水 ◎ 10:00 かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」
13	木
14	金 ● 14:30 自然環境部会
15	土 ◎ 8:30 東洋大学「こもれびの森」森づくり安全講座
16	日
17	月
18	火
19	水 ◆ 9:00 事業運営委員会 ◆ 10:00 理事会
20	木
21	金
22	土 ◎ 8:30 東洋大学「こもれびの森」森づくり安全講座
23	日
24	月 ★ 9:30 「(仮称) 川越市森林公園」計画地植物調査・保全活動
25	火
26	水 ★ 9:00 川越市環境計画見直し意見交換会
27	木
28	金
29	土 ◎ 8:30 東洋大学「こもれびの森」森づくり安全講座
30	日

ボタニカルアート (7) キヌガサタケ



純白のドレスを纏った美しい姿から「キノコの女王」と呼ばれるキヌガサタケは、梅雨の頃に竹林に発生します。胞子を含んだクレバは、果物が腐ったような独特な匂いで運び屋の虫たちを呼び寄せます。中国では昔から食され、かの西太后の好物だったそうです。日本でも栽培されています。(岡治)

インターネットアクセス (QR コード)

ホームページ	X (Twitter)	Facebook	かわごえ里山
Instagram	YouTube	note	こもれび隊

おことわり 本紙の記事は、各著者の寄稿及び広報委員会の編集によって構成されていますが、これらは、組織の公式な見解を示すものではありません。また、本紙は寄稿及び作成時点までの信頼できる各種情報に基づいて作成し、正確性の確保に努めていますが、その正確性に対してかわごえ環境ネットは責任を負いません。本紙は読者ご自身の判断と責任で利用いただき、本紙を利用することで生じたいかなるトラブルおよび損失、損害に対して、かわごえ環境ネットは一切責任を負いません。